

2009/03/05

◇国土交通省「過疎集落研究会」

農山漁村、過疎集落における経済再生、発展の可能性

法政大学現代福祉学部 岡崎昌之

1. 農山漁村の位置づけ

※『21 世紀の日本にとって、農山村が、なぜ大切なのか』（全国町村会、平成 13 年 7 月）

(1) 農山漁村の特性と自立

- －美しい景観をたたえ、住む人が誇りと自信を持つ農山漁村は全国民の財産
- －地域的自立実現の為、異業種、異集団の組織化と、産業区分をこえた地域の重層的活用
- －自然との共生を大前提とし、地域の自然環境を熟知した人たちと協働した地域再生

(2) 自治の充実

- －自治の仕組みと有機的な連携をとり、地域に根ざした産業政策の展開
- －住民ニーズを的確に捉え、施策調整を図り易い優位性を活かし、地域生活の質の向上政策

(3) 農山漁村の支援

- －農山漁村の多面的な価値を重視した、都市と農山漁村の連携と共存
- －日本文化の豊かさの根源は国土の多様性
- －多様性を発揮できる事務と自立支援の仕組みの構築

2. 農山漁村、過疎集落存続の必要性と可能性

(1) 国土管理

－山間部

- 国土環境管理：竹林繁茂等による災害多発、産廃(ゴミ)不法投棄等（青森県田子町他）
- ソーシャルキャピタル：農作物窃盗、寺社・旧家等文化財窃盗等

－島嶼、離島

- 国境管理、排他的経済水域、海洋環境保全等

(2) 新しい生活空間

－伝統文化、地域技術、生活技術の伝承保全

(秋田県旧阿仁町根子:マタギ、根子番楽、福井県若狭地域:ヘソ他)

- －若者世代の新居住空間（西ヨーロッパ、北米でも）
- －都市居住者の移住要望（二地域居住）
- －アグリツーリズム、グリーンツーリズム、エコツーリズム、環境教育

3. 経済再生、経済発展の方向

(1) 地域経済振興の三つの可能性

→ ①企業誘致、②財政資金導入、③地域産業創出強化

(2) 農山漁村における地域産業の創出強化の試み

・地域内外交流型

ex.栃木県茂木町「多様な内外交流事業と美土里館」

・地域資源保全活用型

ex.徳島県上勝町「5つの三セク経営と福祉産業いんどり」

・コミュニティビジネス展開型

ex.熊本県人吉市「球磨地域の農産物と農家主婦の加工技術活用で“ひまわり亭”経営」

・地域技術発掘創出型

ex.愛媛県内子町石畳地区「村並保存から法面緑化、近自然工法河川管理」

(3) 地域ブランド形成

→三層の地域ブランド

①地名＋商品名：地域特産品としての地域ブランド

②地域特産品群の地域的統合としての地域ブランド

③地域特産品＋景観＋文化＋…… 地域個性形成としての地域ブランド（まちブランド）

ex.高知県馬路村「村ブランド形成と柚子産業」“ユズ”を売る前に“まち”を売れ”、長野県小布施町他

(4) 人材育成、地域づくりコーディネーター、集落コーディネーター

ー 一定住型外部専門家と地元有識者の連携

ex.山梨県早川町「日本上流文化圏研究所」→首都圏学生インターンシップ、2千人のHP他

山梨県小菅村「多摩源流大学」→林業再生、企業CSR他

熊本県小国町「学びやの里」→九州ツーリズム大学、農村体験教育ツーリズム、自然学校他

ー ネットワーク化とキャリアアップ支援

ー 集落連携型農業の新展開

ex.東京農業大学、帯広畜産大学等OB

ー 若者就労機会の創出（所有欲＜存在欲）

ex.岩手県遠野市、宮崎県西米良村他「ワーキングホリデーからのIターン」